

# 現代社会を見つめて 3

情報サービス課 石美 真也

『人口減少時代の政策科学』 松原聡 著 (岩波書店) vii, 207, 2p

現在の日本社会は少子化・高齢化社会が進んでいますが、これは日本経済にも大きく影響を与えます。今までと同じシステムでは日本経済は立ち行かなくなるかもしれません。そのため、これからの日本経済にあった社会システムの整備が必要です。

本書では、日本は2006年には人口減少時代に突入すると言われていることを踏まえ、財政再建や年金改革、道路と郵政の民営化など、日本の社会や政策の面から経済が論じられています。少子化のため労働人口が減り、生産力が低下していく。一方、高齢化社会のため社会保障経費は増大していき、このままだと日本経済が停滞していく可能性は高く、日本の構造改革を進めなければならないと述べられています。人口減少時代にどのような政策をとるべきか具体的に考えられており、これからの日本の社会と経済の関係をj知るためにお勧めできる図書です。

332.107-Mat

『国際化する日本の労働市場』 依光正哲 編著 (東洋経済新報社) xii, 248p

日本の労働事情は、高度成長期と比べ大きく変わりました。その要因には雇用制度の変化、少子化・高齢化社会の進展など様々ですが、外国人労働者の在り方の変化もその一つとして上げられます。日本の外国人労働者の事情はどのようなものなのでしょうか。

本書では、日本における外国人労働者問題の歴史と現実の国際労働力市場の需給調整、日本の労働市場の国際化の現状、今後の外国人労働者政策の方向性などの観点から、外国人労働者問題が論じられています。労働人口の減少により外国人労働者の必要性が増していることや、短期間の滞在を想定していた外国人労働者の滞在が長期化し、そこに様々な問題が出てくることなど、外国人の労働の現状や課題がよくわかります。日本の経済を労働という視点からも見てみましょう。

366.21-Yor

『これからだ!日本経済』 永谷敬三 著 (朝日新聞社) 327, ivp

長期間の不況に陥っていた日本経済は、最近ようやく回復の兆しは見えてきましたが、まだそれほど実感はないのではないのでしょうか。経済の回復には今までのシステムを壊し、構造を改革することが必要であるという議論はよく聞くところです。しかし、現在言われている構造改革で本当に経済は回復するのでしょうか。

本書では、以前すさまじい経済成長を達成した日本的システムを再考し、日本文化や国民性を踏まえて、改革の在り方が論じられています。日本人の特徴を「曖昧さを許容する能力」と「対外恐怖症」の組み合わせとし、それが日本経済にどのように作用してきたか、これから日本はどうしていくべきかなどが説明されています。改革が叫ばれている日本社会をもう一度見直してみましょう。

332.107-Nag



いしみ しんや (司書)